



自然と人間社会が共生する只見町

議会だより

No.174

令和6年1月26日発行
2024 JANUARY



じょうずに書けました！

(表紙の説明は10ページへ)

議会報告会 皆さんの意見を町政に反映 ... 4~5

11名が町政を問う！一般質問 12~22

只見町議会中継は、只見町議会
ホームページからも視聴できます。
議会中継へ→



小林地区に提案型 公営住宅の建設

12月
会議

12月12日より4日間開催され9件の条例改正や、一般会計補正予算などの議案が提出され、慎重審議の後に可決されました。
一般会計補正予算においては、社会福祉費の中で電力・ガス・食料品等の価格高騰対策重点支援給付金が示されたほか、債務負担行為補正による只見町建物提案型住宅買取事業、経済対策として商品券発行事業などが提案されました。

条例改正9件

- 只見町税条例の一部を改正する条例
- 只見町税特別措置条例の一部を改正する条例
- 国民健康保険税条例の一部を改正する条例
- 只見町企業版ふるさと寄付金基金条例
- 只見町一般職の任期付き職員採用等に関する条例の一部を改正する条例
- 議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 町長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例
- 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- 只見町会計年度任用職員の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例

債務負担行為補正

(千円以下切り捨て)

*プレミアム商品券発行事業

2620万円



プレミアム商品券発行
令和6年度早期発注のため、債務負担行為とするもの。

*只見町建物提案型公営住宅買取事業

1億6000万円

令和6、7年度事業で小林地区に単身向け住宅2戸、夫婦向け住宅2戸を建築依頼、完成後、町が買い取る。



問 予算額は確定なのか。

答 概算であり、実施時に改めて予算審議を行なう。

問 町営住宅に空きが見受けられる。住宅は不足しているのか。

答 人口ビジョン総合戦略にある居住環境の整備事業だ。実際に老朽化で使えない住宅もあり、不足している現状だ。

一般会計補正予算

* 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金

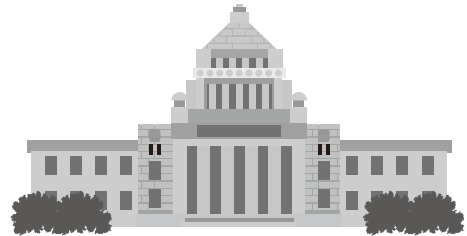
物価高騰支援対策による、国の国庫支出金

5473万円

歳入

問 目的に沿った使用をしてほしい。

答 使用用途は指定されており、適正に使用する。



* 県営圃場整備事業負担金

2310万円

梁取・只見地区で行われている整備事業

問 今年度事業の進捗状況は。

答 降雪の影響もあるが、今年度分は竣工させたい。

問 来年度分の早期発注を求める。

答 早期発注できるよう働きかける。

* 電力・ガス・食料品等の 価格高騰対策重点支援 給付金

4200万円

国庫支出金を利用し、住民税非課税世帯にそれぞれ7万円を600世帯へ支給するもの

問 併用して福祉灯油券も発行できないか。

答 オール電化の家庭や、薪ストーブ使用の家庭もあるため、プレミアム商品券で対応したい。

歳出

* 教育教材備品

976万円

教科書と併用して、デジタル教科書の整備。

問 紙の教科書との比較は。

答 紙の教科書ではできない多様性や柔軟性がある。



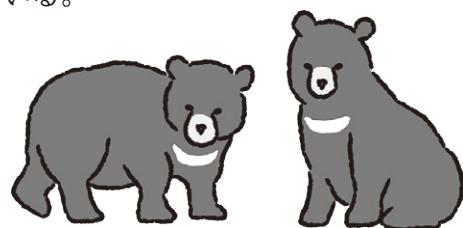
* 鳥獣被害対策実施隊員

180万円

クマ・サルの出没が多く駆除隊パトロールを強化した人件費。

問 今年度のクマ駆除頭数は。

答 昨年の6頭に対し、今年は46頭と増えている。



皆さんの声を町政に反映!

11月26日3地区公民館において、「町や議会に望むこと」をテーマに40名の参加者を迎え開催。各項目ごとに分け、対応策や問題点は各担当委員会にて協議、議会としての対応を今後の議会だよりで報告いたします。

貴重なご意見

●議会について

- *議会報告会の時間が短いため十分な意見交換ができない。
- *議員定数についての考え方は。
- *議員定数について協議されたのか。

●朝日財産区について

- *朝日財産区は、旧朝日村11区で話をするものではないのか。只見町議会の見解は。



●行政執行について

- *町政の見える化が必要。

●役場庁舎について

- *検討段階で止まっているのでは。
- *庁舎が分かれていて町民が不便を感じている。

●ふるさと納税について

- *財源確保のため推進するべき。
- *新たな商品開発が必要。

●職員の勤務状況について

- *議会は職員の休職や超過勤務等の勤務状況を把握しているか。

●子育て環境について

- *家族で楽しめる子ども向けの全天候型屋内施設を。

●学校の環境整備について

- *学校と裏山の距離が近いため熊の出没で子どもたちの登下校が心配。

- *PTA主導の環境整備には限界があるのでは。

- *教員への負担も大きいように見受けられる。

- *学校の登下校は国道を通らないように指導をしているが、大型ダンプが県道を通っているので逆に危険に感じる。工事車両へ通行道路の指定ができないか。

●少子高齢化について

- *小学校の統合について進めるべきでは。

- *公民館事業で出会いの場づくりの復活を。

●安心して住み続けられる町づくりについて

- *健康で住み続けられる施策が必要。
- *高齢者の単身世帯では冬のゴミ出しなどが危険だ。高齢者へ長期間のサービスが必要では。



多くの意見を頂きました!

●新会社設立、第三セクター 統合について

*現在の状況が見えてこない。

●道の駅について

*建設はなくなったのか。

●観光施設・トイレについて

*田子倉レイクビューでの軽食等の再開を。

*季の郷・湯ら里の施設改修が進んでいないのでは。

*只見駅から南会津方面へは国道沿いにわかりやすいトイレが少ないため、車の退避場で用を済ます人がいて困っている。

●只見線、只見駅、只見駅前 について

*駅前に野外ステージの新設の信憑性は。

*只見駅前に食事処が少ない、二次交通がない。

*JR東日本へ再開通の御礼を迅速にすべきだった。

*議会は只見駅の窓口対応時間などの状況を把握しているか。

●八十里越国道289号線 について

*3年後の開通に間に合うのか。

*開通後の展望が見えない。

●道路の維持管理について

*塩沢郵便局付近のグレーチングに不具合がある。

*国道の管理は福島県だが迅速な対応ができないものか。

●農地・県営圃場整備について

*高齢化による普請の継続の難しさ。布沢の米作りから大規模農家が撤退した。

*布沢区、坂田区ともに圃場整備が必要で手続きを進めたい。

●水路について

*水路の補修工事見積もりが物価上昇前の見積金額の予算であった。

*災害復旧と補修工事の線引きが不明。担当課より連絡がきたのが益過ぎであった。適正な事務執行されているのか。

*議会の担当委員会に現地視察を早急に要望する。

●除雪について

*秋に建設業の仕事がなくて大変だと聞いた。

*只見町克雪対策事業補助金、特に冬季孤立住宅解消事業の該当要件の見直しを。

*町道除雪体制を真剣に考えていただきたい。

*道路除雪従事者の待遇改善を。業務に応じた均等な報酬を。

*宮下土木事務所管内は協議会で除雪を請け負っている。只見町でも協議会の発足が必要では。

*議会は冬季孤立住宅事業の対象になる世帯数を把握しているか。

●有害鳥獣について

*どのように人の生活圏を守っていけばいいのかわからない。専門の課の必要性は。



薪エネルギー 推進事業について

全 員 協 議 会

11月24日、動き出している薪エネルギー推進費9千300万円について、共通理解を深めるため、全員協議会が開催されました。

町の林業の現状、エネルギー活用の意義、ボイラーの設置場所、費用、財源、ランニングコスト等について、特命参与紙谷氏、室長から説明を受け協議しました。

主な質疑応答

問 9千300万の予算執行と計画説明はどのように関わっているのか

答 当初予算では、薪ステーションの整備工事を計上、ステーション本体については完了を迎えた。備品購入費、その中で薪製造機を調達、また薪製造に関わる備品の導入を進めている。薪ボイラー棟の実施設計1千500万も計上されている。

問 湯ら里において薪ボイラーが優先されるべきか、老朽化して改修が必要な部分もあり、万全な状態で導入すべき。

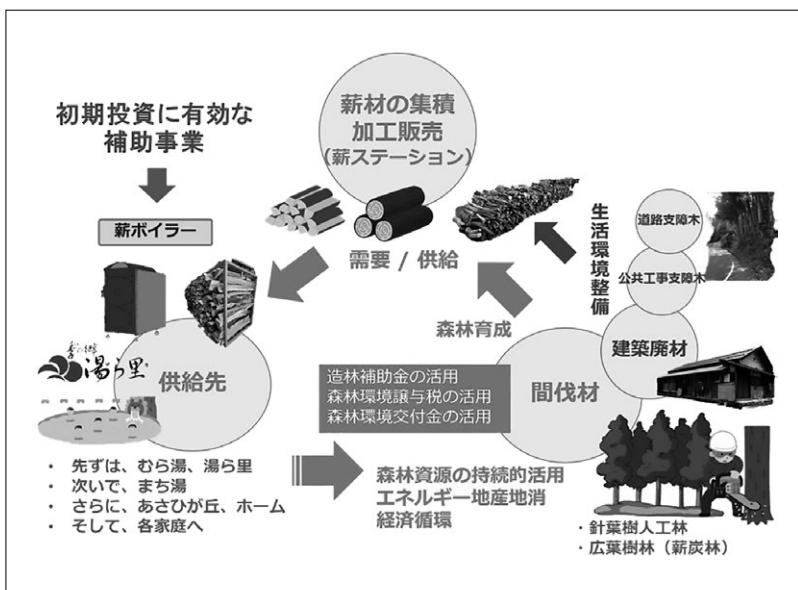
答 施設の改修計画については計画をしており、改修計画の中で、湯ら里が適地とされている。ボイラーの設置と改修については並行して考えていかなければならない。間伐した跡地の利用計画は、森林は、比較的傾斜の急なところが多いが、深沢地域のようなところは、レ

問 只見町薪ボイラー事業化全体設計業務報告書をわかりやすく、説明されたい。

答 業務内容から、森林の育成、導入施設の基本設計、事業効果、目指すべき将来像、これに沿って計画を進めていくことが重要だと評価している。

問 湯ら里に関して、源泉や客室の問題が出ていた。全体的な計画を立て、それを年次別に考えてやっていく必要があるのでは。

答 改修計画を作成しており、必要性は充分承知している。事業を精選し改修も併せてやっていかなければならないと考えている。



只見町の森林・林業と薪エネルギー利活用のイメージ

令和6・7年度只見町総合戦略の実施計画書が示される

12月会議で第7次只見町振興計画・只見町総合戦略の実施計画、令和6年度・令和7年度分が示されました。主な新規事業を紹介します。

*自然と共生するまちづくり

- ・只見ユネスコエコパーク登録10周年記念シンポジウムの開催
- ・老朽化に伴い大倉礼堂町営住宅団地1棟5戸解体工事

*住民が主役のまちづくり

- ・おためし移住住宅整備事業
- ・空き家活用 of 移住体験ハウスを整備
- ・第8次只見町振興計画策定事業
- ・只見線こども会議と連携し只見線の観光路線化に関する事業

*働きがいのあるまちづくり

- ・出合いの場創出事業
- ・出合いの場を創出し婚姻の促進、少子化対策
- ・大倉堰改良事業のための機能保全計画策定
- ・只見駅前複合施設整備
- ・令和6年度・7年度只見駅舎を新築移転し利便性向上を図る

*文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり

- ・小学校の在り方についての検討会開催
- ・只見中学校駐車場舗装改修工事

*住みやすいまちづくり

- ・保育環境の充実を図るための施設整備
- ・保育所改修及び通園バス2台購入
- ・子育て遊具整備事業
- ・幼児から小学生まで遊べる遊具の整備

*令和7年度事業実施計画(新規事業)

- ・広域WiFiを活用し町内のデジタル化を推進
- ・只見中学校グラウンド改修(土の入れ替え測量設計委託)



表彰状贈呈

三瓶良一議員が町議会議員として三十五年以上勤続され、町の振興発展、住民の福祉向上に尽くされたことから、鈴木淳司総務大臣より感謝状が贈呈されました。



感謝状が贈呈された三瓶良一議員（大塚議長代読）

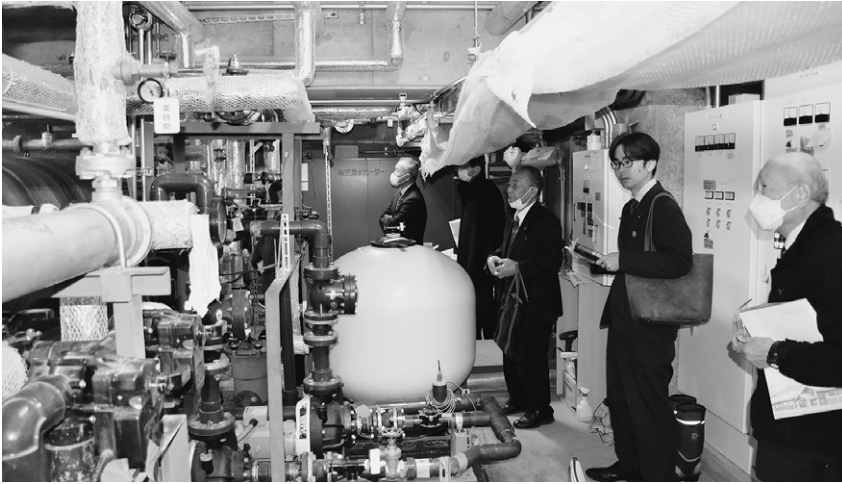
●老朽化施設の改修計画を求める！

(1) 認定こども園設置に向けた検討状況を継続して調査
町当局より幼保連携型認定こども園設置に向けたスケジュール(案)が示されたが計画に基づき確実に執行されるよう求める。

(2) 只見町文化祭中止について
50回開催されてきた只見町文化祭が突然中止の発表がされ、中止にされた経過は町民不在であり反省を求める。

(3) 季の郷湯ら里・むら湯の現状について
現地調査
建物の老朽化、源泉量の減少、ボイラー・配管施設の老朽化を確

認した。部分的な改修でなく全面的な改修計画を策定することを求めている。



季の郷湯ら里配管施設確認

●新ステーション運営業者「只見町森林組合」に決定

森林整備による間伐材、資源の地産地消を通し、町内における経済循環に結び付けられるか課題である。
運営事業者も決定し森林資源を活用した地

域振興への取り組みは町として重要政策、事業が稼働し軌道に乗るまでには更に時間と費用が必要であり慎重に調査していく。

視察報告

10月31日

新潟県上越市第三セクターえちごトキめき鉄道(株)を視察。「地域に経済を」をモットーに躍進している社長・鳥塚亮氏と意見交換し「地域の事は地域の人々が先頭になり動いていくこと」と認識させられた。

11月1日

新潟県十日町市カーレンクスアンドアソシエイト(有)を視察。「もったいない精神」から、地域に残る古民家再生、リノベーションを通し、地域の人々と共に復興に実績を上げられている社長のカーレンクス氏と「地域の魅力を次の世代へ」などの意見交換をした。



鳥塚社長と直江津駅にて



新ステーション

●ごみ削減・ごみの循環型社会へ

11月6日

*山形県米沢市ジークライト(株)研修

この処分場には50を超える行政区からの廃棄物が持ち込まれていること、処理水の水質管理には厳格な基準で対応。

米沢市長の「本音はこれ以上持ち込まないでほしい。」という言葉が印象的であった。

他県の山間地を埋め立てるしかない現状、埋め立て地もやがては満杯になることなども考慮して対策を考える必要がある。

11月7日

*J&T環境(株)仙台工場、(株)東北バイオフードリサイクル仙台工場

両工場とも自治体や排出事業者と提携し、廃プラや紙くずなどの再生可能廃棄物利用、新たな製品としてリサイクル、更に焼却熱を利用した発電、食品廃棄物を利用したバイオガス発電を行い、循環型社会へ向けた取り組みを研修することができた。

今後、当組合においてもごみの削減や、分別・リサイクルに向けた取り組みを推進して行く必要がある。



3町村で構成される環境衛生組合の視察研修

●先進地議会視察

10月4日

長野県・飯綱町議会へ議会改革の取り組み等について視察

10月5日

長野県・山ノ内町議会へ議会改革の取り組み等について視察

11月14日 北塩原村議会運営委員会行政視察受入。通年議会制度の導入等について意見交換を実施。

12月7日 議会12月会議について協議

12月7日 議会12月会議について協議



先進地飯綱町議会と

●新コーナー「町民の声」大募集

173号から掲載した「町民の声」の新コーナーが大変好評の意見をいただきました。

173号から掲載した「町民の声」の新コーナーが大変好評の意見をいただきました。広報委員会では次回175号掲載。町に思うこと、議会に言いたいことなんでも結構なので投稿者を募集しております。

詳しくは議会事務局又は広報委員にご連絡いただきたいと思います。

一般会議募集のお知らせ

広報広聴常任委員会では町民の皆様から様々な意見を聴き議会活動、町政に反映し、より良いまちづくりを考える場として一般会議開催の募集をしております。

*テーマ

テーマはまちづくりについてどのような事でも構いません。申し込みの際にお知らせください。

*開催方法

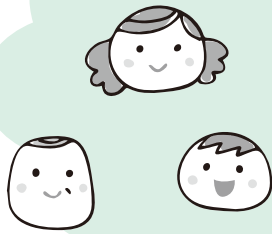
日時・場所については皆さんの都合に合わせてご相談させていただきます。

*申し込み方法

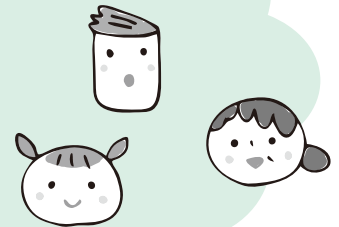
議会事務局へご連絡ください。

(TEL 82-5300)

町民の皆さんと議会が一緒になりまちづくりについて話し合ってみませんか！



町民の声



町のこと、議会のことについて想いを書いてもらう新企画コーナー

もっと具体的な提言を！

新コーナーとして「町民の声」欄が設けられたのは素晴らしいと思います。ただ、毎回議会日より「町政を問う！」を読んで思うのは、議会側からもっと具体的な提案や政策提起があってもいいのではないかと思います。もちろん、住みやすいまちづくりのためには、町長の方針や考え方がどうなのかが原点ですが、町民の目線に立った意見や要望などもっとあってもいいのではないかと思います。そのためには町民の声を聴く普段の努力が求められ、大変なことだとは思いますが。また、通年議会の在り方も見直す必要があるのではないかとも思います。

日本の人口は50年後には約8千万人、3分の1の人がいなくなる推計がありました。只見町もこの10年で400人くらい減っているのではないのでしょうか。しかし高齢・単身世帯は急増しています。直近の議会だよりや広報ただみで高齢者に対する生活支援について掲載されていました。身近に感じていることであり嬉しく思いました。

(70代男性)



町民の声を見える化へ

私は元々只見町出身ではありませんが、町内の方々とお話をするときにいつも話題になることがあります。それは、町の課題に対する意見です。町民の皆さんのお話を聞かたび、只見町は一層魅力的な町になれるとつくづく思います。しかし、この貴重な意見は町の行く末を決める方々に届いているのかを考えると私はあまり届いていないと感じています。

そこで、各公民館に意見箱を設置し、集めた意見を中央公民館に貼り出せば、それを見た町民が町の現状に関心を持ち、町民全体の意識改革になるのではないかと考えました。また、その意見は町役場の方にも共有し、町の取り組みに繋がっていただきたいと思います。これは一案に過ぎませんが、町民の声を「見える化」することにより、最終的に町民が主体となってより良い町をつくることで、只見町の魅力と活力が高まることを期待しています。

(20代男性)



表紙の写真に想う



書き初め教室での
完成品を全員で

令和5年12月25日に只見公民館で書き初め教室が行なわれました。田ノ口在住の吉津五郎氏の講師のもと、力強い筆使いとなり子供たちも上手に書いていました。令和6年も子供たちの元気な声が町中に響き渡ることを願います。

各議員のところにQRコードを付けてみました。一般質問の様子が見れます。ぜひ見てね！
*注 2名が一緒の録画動画になっています。



ブナりん

一般質問者席

一般質問

- **酒井正吉郎**12
加速度を増す人口減少への対策は
- **矢沢 明伸**13
若者、子どもたちへつなぐ町づくりを
- **小沼 信孝**14
観光の拠点づくりの進捗は
- **酒井 右一**15
なぜ、文化祭は中止となったのか
- **鈴木 好行**16
若者移住・定住にむけた新たな取り組みは
- **佐藤 孝義**17
今後の文化祭のあり方は
- **三瓶 良一**18
急激な物価高騰対策と生活支援は
- **菅家 忠**19
2040年の只見町の姿とは
- **山岸 国夫**20
難聴者への補聴器購入補助を
- **中野 大徳**21
今後の第三セクターは
- **齋藤 邦夫**22
医師確保と診療体制の立て直しは

町政を問う

町を想い11名が

一般質問とは

議員が行政全般(役場の仕事全般)に対して、方針を問い、政策の提言などを行なうことです。

加速度を増す 人口減少への対策は

答 第七次振興計画に沿って事業を展開する



さか い しょうきち ろう
酒井正吉郎 議員

問

当町も全国の地方と同様過疎による空家の増加、若者の流出、地方経済の衰退等深刻さが増し、町の存続にいろいろ取り組んではいるが、歯止めがかからない状況だ

答

少子高齢化、医療体制の維持、商工業者などの事業継承、全産業等に渡る担い手不足など危機感を認識している一方でいくつもの元気の出る出来事も続いているところでもあり官民連携に

よる古民家や空家の再生など、町内にある多くの資源を活用し、地域活性化に結び付くよう、足元にある宝の磨き直しについては、第7次振興計画に沿って事業を展開していく。

(株)モンベルと包括連携に関する協定に基づき、特にアウトドア分野をメインとした掘り起こしと磨き上げを進めていく。

問

鉄道と道路を通じたの他地域との友好延伸は。

答

只見線のつながりでは、魚沼市、飯山市、長野市などと連携が始まり、R289八十里越えのつながりでは、三条市、南会津町と越後・南会津街道観光地域づくり懇談会などでの連携を図っている。また、ユネスコエコパーク登録地のつながりでは、群馬県

みなかみ町や長野県山ノ内町などとの連携や、栃木県那須町と相互交流を行っており、関連自治体と連携し力を合わせて諸問題解決に取り組んでいく。

問

自然の恵み「水資源」の有効活用は。

答

只見町では田子倉発電所をはじめとした水力発電所が複数設置されており、脱炭素社会を目指す取り組みの中で再生可能エネルギーである水力発電の存在価値が見直されている。福島県エネルギー課では叶津川が小水力発電所の有望な場所であると報告されている。また、駅前広場やメインストリートに只見用水を活用した消雪設備については、関係機関や団体との協議を通し、検討していく。



歩道まできれいな消雪道路

若者、子どもたちへつながぐ町づくりを

答 町内へ定住できる環境づくりを進める

問

人口ビジョンでは2040年には人口3000人を目標としている。Uターン等促進助成制度などで「現状が大きく変わった」と言い難い実態もある。」との答弁だが、こういう部分こそ検証が必要でないか。

答

コロナ化等もありアンケートによる評価になっていた。具体的に事業の結果、目標等をきちんと説明し、検証の在り方についても見直し等行なっていく。

問

若者定住の施策として、Uターン等促進助成支援制度等できている。取り組む中で認識を新たに、もう一歩踏み込んで総力を結集していかないと2040の目標値は高いところで終わってしまう。町長はどういう認識をもって

答

現状のままでは到底叶わない厳しい数値だと認識している。

どれだけ我が事と感じて、トータルで提案できるような力、共有、共通という認識をもってもう一歩踏み込むという姿勢は大事と思っ

問

ており、努力していく。子どもたち、先生方はESD教育に一生懸命取り組んでいる。子どもたちの学習の場に地域の人が関わることが還流支援につながるのではないか。

答

子どもたちが「自分たちの町」という意識が変わってきている。そこに地域の人たちが直接的に学習に関わっていただいており、子どもたちの意識改革、持続可能な地域に繋がっていくものと考えている。今後

問

も力を入れて、教育環境を整えていきたい。

子ども達の意見を聞きながら、地域社会を創っていく。「地域が子どもを育て、育った子どもが地域をつくる」というスローガンの、すべての人が共有できる考え方、

人口ビジョンの目標値を達成する取り組みのためにも必要でないか。

答

みんなで共有でき、分かりやすく、この方向に向かって頑張っていくんだという術が必要と思う。

あわせて公民館での取り組み、地域の方々の交流、新たな展開も生まれてくる。もう一歩踏み込んだ取り組みをしていく努力をしていきたい。



のびあきざわや
矢沢明伸 議員



観光の拠点づくりの進捗は



お ぬま のぶ たか
小沼 信孝 議員

答 駅前に拠点を作りたい

問 只見町にとって観光をどのように捉え、どのような位置づけか。

答 今までは観光イベントに補助金を出せば良いということだったが、今後は町が主体となり観光により力を入れていく分野、重要な産業の一つだと思っている。

問 観光に対する多くの問題点が出されていると思うが、一番の課題はなにか。

答 観光に関する一番の課題は、人

材の確保にあると思っており、その人材と目標を共有し、同じ方向性を見出し、取り組んでいくことが重要と考

問 J R只見線が全線再開通して一年が経過したが、観光施設入込数は。

答 令和4年10月から一年間で232267人前年度から1・6倍となっている。

問 観光施設である湯ら里の集客を増やさなければいけないと考えるが施設整備、源泉問題、優先順位をつけ取り組んでいく必要があるのではないか。

答 源泉、受け入れ態勢、人材確保、どれも重要なので順番を付けられるものではない、今後どうするか再確認しなければなら

問 振興公社社長の副町長にお聞きしたい。ただみの森キャンプ場内に壊れたままになっている施設があるが、町の観光施設として恥ずかしいのではないか。

答 状況を承知しておらず、報告もなかった。降雪前、来年度出来る対応を担当課と協議する。

問 観光の拠点づくりだが、どのようなものをお考えか。

答 駅前エリアにコンビニ、ドラッグストア機能、屋内で子供が遊べ、親同士が集える場所、観光客に対するものも含めて整備していきたい。

問 施設整備については理解したが、早急に観光を考える組織作りが急務と考えるが。

答 構想については年明けにお話し、新年度に入って5月から6月までには組織作りをしたい。



壊れたままの観光施設（ただみの森キャンプ場）

なぜ、文化祭は中止となったのか

答 学習機会の低下や
出品作品の減少による

低下や出品作品の減少が顕著となっております。教育委員会事務局において第50回を節目に町文化祭の在り方について見直し検討をすることで進めてきた。

来年度は、一部役員へ相談をしたところ、現状を踏まえての文化祭開催に向けて検討すべきではないかとの意見をいただいている。

問 第50回を超えた歴史と伝統の只見町文化祭は極めて意義あるものであった。なぜ、いきなり中止なのか。町が主催する只見町文化祭の中止は納得できない。町民・有識者において違和感もあると聞いている。

答 只見町文化協会をはじめとした関係団体等との協議検討に至らないまま教育委員会事務局での検討にとどまり、町民への説明も不十分であった。近年の人口減少や少子高齢化、コロナ禍の影響により学習機会の



さか い ゆう いち
酒井 右一 議員



更なる少子化抑制の検討が必要では

答 幼児期での人づくりが重要と考える

問 現下の厳しい少子化において「認定子ども園」設置には、更なる少子化抑制を念頭にした検討が必要ではないか問う？
更なる検討とは、人的資源の在り方、資金、施設の在り方など「幼

保・小中学校連携」の具体的な構想も避けて通れないのではないかと。少なくとも「只見町子ども・子育て支援計画」ではそう述べており、大きな課題である。

答 認定子ども園の設置を進めるにあたっては、働く親の子育て支援により仕事と育児が両立し子育てしやすい環境づくりや、就学前の幼児教育に重点を置き、子どもの発達段階に合わせたカリキュラムや集団での教育や保育を行うことによる幼児期での人づくりが重要であると考え

る。そのため、開園にあたっては、保育士の人材確保、施設改修、さらには教育や保育の環境改善などの観点に加えて、小学校での学習の在り方も同時に検討していく必要がある。

若者移住・定住にむけた 新たな取り組みは



すずき よしゆき
鈴木好行 議員

答 制度の見直しと新たな制度の創設を

問 只見町人口ビジョンに掲げた目標人口を下回って人口が減少している。様々な移住プランの提案が必要ではないか。

答 移住・定住に向けた事業に成果が上がっていない。効果・検証を踏まえ、新たな取り組みはあるか。今年度は移住体験のできるふるさとワーキングホリデー制度の創設をし、来年度は、お試し移住住宅の整備も検討している。

答 只見の特性を活かしたPRに努めたい。

問 町独自に、未婚者への出会いの場を提供する政策が必要だ。考えはあるか。

答 今年度は公民館事業として「交流会カフェ」を実施した。来年度は県の支援を受けながら、出会いの場を提供する取り組みを実施する予定だ。

問 住んでいる町民が、「只見町は嫌だ、暮らしくい。」と思っていれば、只見に移住してくる人も、残る人も少なくなる。危機感の共有と、「只見愛」の教育を町民全体に理解してもらう取り組みが必要と考えるが。

答 公民館事業や、講演会などで広く、周知していきたい。

子育て環境を充実させる政策は

問 議会報告会の意見に「乳幼児を安心して遊ばせる施設がない、若い親同士が集まる場所がない。」との声があった。整備する考えは。

答 必要性は認識している。まずは幼児から小学生まで遊べる遊具の整備を検討している。更に只見駅前創出事業の中で、子供が遊べる施設、親同士が集える場所の施設の整備を検討する。

問 認定こども園への取り組みと、小学校の在り方は同軸で考える問題だ。町長の考えは。

答 遊具の整備、複合施設の整備を検討

答 認定こども園と小学校教育は俯もあると考える。小学校の在り方は令和6年度、検討会で検討する。



子供を遊ばせる施設整備を

今後の文化祭のあり方は

答 文化協会等と協議し

開催内容を見直す

問 令和5年10月5日の只見町文化祭実行委員会において、50年続いた文化祭の在り方が困難になり、今後の文化振興事業について提案があった。その場でも各種団体の役員からも質問が出ていたが、町民にその経過や、今後の進め方など、

丁寧の説明願いたい。まず事前に文化協会、各種文化団体と協議をされたのか伺う。文化協会からは今年度の懇談会でも話はなかったと聞いている。いつだれが今年の中止を決定し町民に周知されたのか。

答 一部役員の方へ相談したが、団体とは協議をしていない。懇談会においても文化祭の在り方に関する協議はしていない。

只見町文化協会をはじめとした関係団体等との協議検討に至らないまま教育委員会事務局での検討にとどまった。

問 生涯学習カレンダーにも掲載されていないが。

答 生涯学習カレンダー未掲載についても教育委員会の判断で行なった。深く反省しお詫びする。来年度の文化祭については、文化協会等と協議しながら、11月3日を中心に文化推進期間を設けるなど開催内容を見直して、文化協会や町民のご協力を頂きながら町文化祭の実施を検討していく。

問 文化に対する、教育委員会と中央公民館との位置づけは。

答 文化推進については、教育委員会では、教育委員会での教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて教育委員会が具体的な事務を執行している。

その中で、文化財の保存活用・文化施設の設定運営・文化事業の実施等については教育委員会事務局文化スポーツ係で所管し、生涯学習・社会教育事業の実施について公民館で所管している。生涯学習・社会教育事業は密接に関連しており、教育委員会事務局と中央公民館及び各地区公民館が連携して文化振興に取り組んでいく。



さとう たかよし 議員
佐藤 孝義



急激な物価高騰対策と生活支援は

答 非課税世帯に総額十万六千円を支給



さん べりょう いち
三瓶良一 議員

問

異常な物価高騰は、特に低所得者の生活を直撃している。国民年金生活者等は国県の対策だけでは追いつかない。町も支援すべきでは。

答

国は住民税非課税世帯に支給済分三万円、今回の七万円と県六千円分で総額十万六千円の支給をする。



問

所得二千万円までの世帯には所得税と住民税四万円減税される。低所得者ほど厳しい。福祉灯油等は支援すべきでは。

答

今後の課題としたい。

駅前広場整備と行政改革は

答 J Rと設計規模、機能面で協議中

問

駅舎建設の進捗状況は

答

J Rと設計規模、駅機能面で協議中だ。只見〜川口間の線路管理に県は参加するので、駅舎等にも参加をお願いする。財源が問題だ。

問

磐梯町はふるさと納税で六億円確保した。返礼品より町づくり計画等に協力希望の納税者が増えている。町も計画を示し応援願いのPRをするべきでは。

答

おっしゃる方向でPRを進めたい。返礼品も充実させたい。

問

町振興には職員のプロ意識やスキルの向上が重要だ。特に将来を担う若手職員の育成だ。町民意識がバラバラでは町は発展しない。中央公民館にはオール只見の牽引者の役割を期待したい。

答

職員の対応力の向上はご指摘のとおりだ。中央公民館は基本活動と共に町民の一体的な学びの場に努めたい。

2040年の 只見町の姿とは

答 地域の共生と交流を柱にした
自立した町を目指す

問 中長期計画を策定する上で、指針とすべき指数はなにか。

答 人口であり、特に年少人口である。

問 2040年の只見町の人口と生産年齢人口の予想は。

答 人口は2608人、生産年齢人口は1106人である。

問 只見町人口ビジョンで示している合計特殊出生率は2.3で、実現できれば全国3位になるが実現できるのか。2.0を越えている自治体は20ほ

どで、先進国で継続して越えている国は存在しない。2040年には就労人口は550人ほど減る予想である。この数字は町民の日々の生活に力を入れていくべき数字ではないか。

答 地域にあった「足るを知る」政策をつくる時代だと捉えている。そのラインがどこなのかを話し合う場が議会だと考える。

問 人口に適した公共施設にすることが重要だと考える。只見町公共施設等総合管理計画には「毎年4億円の不足」施設を20%削減目標」と記載があるが進捗は。

答 独善的に進めるのではなく、議会と協議し方向性を決めていく考えである。

問 誰のための政治か、の視点で質問する。他自治体のように包括協定を結んでいるモンベルの軽量・高機能ランドセルを町からプレゼントするのはどうか。町がどの方向を向いているのか保護者・地域に伝えやすく、町との関わりを子どもたちは毎日感じられる。

行政職員は住んでいる集落との信頼が基本である。観光客にどんなおもてなしをするか考えるより、これからどうやって普請を続けていくかを考える方が大切だと考える。

答 モンベルの7つのミッションと私のまちづくりの方針が合致しているので協定を結んだ。ランドセルは教育委員会とも協議を進める。また屋内で子どもが遊べて保護

者が休めるような場が駅前整備に盛り込まれたいと考える。時間切れになったため別の機会

※只見町人口ビジョン、只見町公共施設等総合管理計画は検索するとpdfデータで公開されています。



ただし
議員
菅 家

難聴者への補聴器 購入補助を

答 全国の動向を注視し、引き続き研究



やま ぎし くに お
山岸 国夫 議員

問 身体障害者手帳交付の対象とならない軽度・中程度の難聴者への補聴器購入補助制度は、全国的にも実施自治体は増えてきている。
答 実施している自治体は、「聴力機能の低下により、ご友人やご家族等とコミュニケーションがとりにくい高齢者を対象に、閉じこもりを防ぎ、高齢者の積極的な社会参加や地域交流を支援し、高齢者の健康増進、認知症予防に資することを目的



に、補聴器の購入費を助成します」としている。早期に補聴器を使用することにより高齢者の社会活動の維持、生活の質の低下を防ぐためにも補聴器購入補助制度創設を求める。

答 生活の質の維持や介護予防に聴

力低下は大きな影響があることは事実であり、今後は、早期発見につながるための聴力検査の実施検討など難聴把

握の取り組みを進め、医療機関への適切な受診につなげるとともに、治療や予防、普及啓発の取り組みも行なっていく。

問 町民の半数近くを占める高齢者への福祉政策を手厚くする必要はある。

答 趣旨は理解できる。補聴器購入の助成の具体化は、制度設計の検討・研究の時間をいただきたい。

問 町は、今年度から町の機構改革を実施し、中央公民館をスタートさせた。

答 旧振興センターの事務すべてについて継続して実施となっている。「住民との共同のまちづくり」について、中央公民館及び各公民館の4月以降の取り組みと成果は。

答 生涯学習の観点での各種講座を実施

町は、今年度から町の機構改革を実施し、中央公民館をスタートさせた。

問 高齢者のゴミ出しや玄関前の除雪が困難になってきている声が寄せられている。町の支援体制は。

答 ボランティア事業として訪問型サービスマスター事業を開始した。やっていただければ可能。

答 地域福祉講座の実施、防災・減災講演会の開催、賑わいづくりのための出店講座の実施、生涯学習の観点での各種講座を実施している。

「町民と共同の 町づくり」の 執行状況は

今後の第三セクターは

答 新会社の設立を引き続き目指したい

問

5年度当初(株)季の郷湯ら里と振興公社との合併案を示されたが、実現していない状況と第3セクターに対する考え方と今後の方針について。

答

第三セクターである株式会社季の郷ゆらりと(株)会津ただみ振興公社の経営統合を図るとともに、従来の観光まちづくり協会の機能を加えた新会

社の設立を引き続き目指したい。しかしながら新会社の設立については、今後の展開に不安の声があることも承知している。まずは(株)会津ただみ振興公社が現在担っているインフォメーションセンター運営という役割に、さらに観光業務機能を強化した組織の展開を図っていきたい。

問

第三セクターである(株)季の郷湯ら里と(株)会津ただみ振興公社は、業務内容に差異があり、そもそも相当の無理があったのではないかと。経営統合しなければならぬ明確な理由も説明不足だったのではないかと。

答

特別委員会や、中小企業診断士の財務諸表等いただきたい、統合が望ましいとのことであった。目標が予定通りで進んでいないのは、途中経過、説明不足と考える。特別委員会の報告、現在の経営状況等を考えて必要性に迫られているということは理解いただきたい。

問

観光事業に対する町民が理解できる組織体制づくりを。

答

反省すべきところは反省して、信頼を回復できるように努力を続けていかなければならない。観光事業にかかわらず町民から変わったと思われるような第三セクターの構築に取り組む。



なか の たかのり 議員
中野大徳



医師確保と 診療体制の立て直しは



さいとうくに お 齋 藤 邦 夫 議員

答 医療体系の構築と医師確保に努力

答 医療環境と医療施設の運営は以前より厳しく地方はより顕著である。主要因は、働き方改革関連法案の施行により労働時間の短縮と質の高い医療と医療現場の働き方の実現。更に医師・看護師等医療スタッフ

問 町長は就任に当たり、五つの政策目標の一つに「朝日診療所の診療体制の立て直し」を表明されている。その具体的取り組み状況と今後の見通しについて問う。

の減少がある。当町では県立医大や福島県から医師の派遣を頂き運営しており、連携を密にして要望していきたい。

問 平成三十年度、議会は診療所に係る調査特別委員会を設置し、町は診療所経営健全化計画を策定、更に令和三年から五ヶ年計画で「診療所基本計画」をたて取り組まれてきた。今年は基本計画の中間年に当たる。概ねの進捗状況を問う。

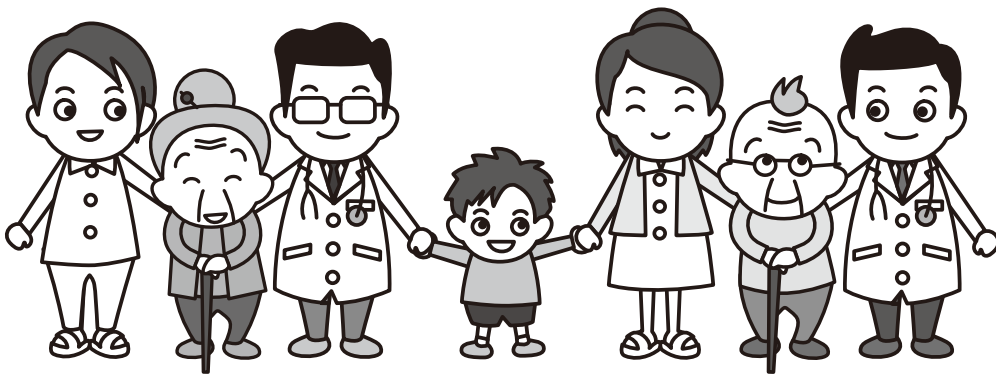
答 医師確保には、当直勤務が大変負担になっており、こぶし苑や特別老人ホームも抱えており、入院患者があれば必ず応召義務が生じ、医師や看護師の確保には夜間勤務が大きなネックになっている。

問 朝日診療所の地域医療科が町民に理解されれば予防医療の向上に繋がり役割が果たせると考える。また、訪問看護・介護の連携、更に予防医療の観点から町行政との協働について問う。

答 会津医療センター、南会津病院、朝日診療所が連携の図れた医療体系を安定的に構築し、難しい医師・看護師の確保に努めて参りたい。

問 訪問看護と訪問介護の連携については、医師の指示の下、包括支援センターや在宅介護支援センターのケアマネージャーが利用者の状況を把握し、連携を密に円滑なサービスに努めている。また、町行政との協働については、町は社会福祉協議会と協働し、生活支援体制の整備に努めている。

答 訪問看護と訪問介護の連携については、医師の指示の下、包括支援センターや在宅介護支援センターのケアマネージャーが利用者の状況を把握し、連携を密に円滑なサービスに努めている。また、町行政との協働については、町は社会福祉協議会と協働し、生活支援体制の整備に努めている。





ブナりん

教えて! 議会のこと

Vol.38



アカシヨウちゃん



イワっぺ

只見町キャラクター ©Tadami

今年は只見町議会 議員選挙があるね!



ブナりん

3月に町の議会議員選挙があるって聞いたけど、立候補するにはどうするの?

議会議長

よく議会をみているね。ありがとう。

町の議会議員に立候補するには、只見町に3ヶ月以上住所があって、満25歳以上なら立候補できるよ。ちなみに選挙権は満18歳以上からあるよ。



アカシヨウちゃん

ふーん、選挙運動はどうやってするの?

議会議長

公職選挙法で決められていて、選挙違反にならないように運動しなければならないんだよ。

ブナりん

じゃあ、どんなことが選挙違反になるの。

議会議長

お金や品物によって投票を依頼する買収や、投票依頼の目的で有権者の家や会社などを訪問する戸別訪問や、飲食物の提供や投票依頼

の署名運動など、様々な規制があるんだ。現職の議員になると、寄付行為なんかも禁止されているよ。

ブナりん

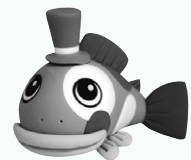
どうやって投票する人を選べばいいの?

議会議長

選挙が告示になると、はがきや新聞などに立候補者の政策や考え方が載せられたりするよ。ほかには立候補者の街頭演説を聞いたりして自分で判断するんだ。

イワっぺ

貴重な一票だから、慎重に選ばなければいけないね。



議会議長

そう、町の将来を決める大切な一票になるから、イワっぺも18歳になったら棄権しないで投票して下さいね。



只見町議会中継は、
只見町議会ホームページから
視聴できます。



僕が望む只見の未来



只見中学校
一年 増田 巧

いるだけで心がとても落ち着きます。

二つ目は、自然が豊かなところですよ。意外と知られていないともきれいな自然がたくさんあります。

ただ、僕が考える改善点が一つあります。それは、人とお店が少ないことです。少子高齢化が進み、年々人口が減少していることから、もっとお店を増や

僕は只見町が好きです。特に好きなのが二つあります。

一つ目は、地域の方々が優しいところです。

みなさんとても優しいので、みなさんの中に

只見町への思い



只見小学校
六年 藤田 歩夢

ぼくが只見町について気になっていることは、人口が少ないことです。以前は、多かつ

たのですが、田子倉ダムの建設後、人口が多く減ったといえます。このままだと、若者が多く減っていき、只見町の人口がもっと減ってしまいます。それを変えたいためには、只見の魅力を発信して、多くの人に只見町に来てもらう必要があります。

して只見町に来る人を増やしてほしいと思います。

これらのことから僕が望む只見町の未来は、人がたくさんいて、みんなが優しい人たちであること。さらに自然を壊さないくらいのお店をたくさん作ることです。

ひとこと

「世界に誇れる自然」がたくさんある只見町の将来と一緒に考えて行こうね。

ひとこと

もっともっと「只見町の魅力」を発信していくことが大切だね！

編集後記

明けましておめでとうございます。元旦に発生した能登半島地震において被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げます。さて、我が町においてはJR只見線の再開通が予想以上の経済効果をもたらし、数ある赤字ローカル線復旧復興の見本となるよう努めなければなりません。国道289号線開通に向けた受け入れ体制作りなど、多くの課題が山積しております。

地方自治体は、住民が首長と議員を直接選ぶ二元代表制で成り立っており、互いに緊張感を持って切磋琢磨することを通じ、政策は磨かれ住民の利益につながっていくと考えます。現メンバーによる「議会だより」作成もあと一回、議案の審議内容や経過をわかりやすく、見やすい紙面作りに努めてまいりました。本年も一層努力して参りますのでどうぞよろしくお願いたします。

(中野大徳委員)

発行責任者

議長 大塚純一郎

広報広聴常任委員会

委員長 小沼 信孝

副委員長 菅家 忠

委員 中野 大徳

委員 山岸 国夫

委員 鈴木 好行

委員 矢沢 明伸

